

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 8 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Reciprocal relationships among alcohol use, risk perception, and sexual victimization: a prospective analysis. アルコール使用、認知リスク、性的虐待の相互関係：前向き研究	
<b>執筆者</b>	
Gidycz CA, Loh C, Lobo T, Rich C, Lynn SJ, Pashdag J.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Am Coll Health. 2007 Jul-Aug;56(1):5-14.	
<b>キーワード</b>	
アルコール使用、大学生の健康、前向き (研究)、危険因子、性的虐待	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> アルコール使用、認知リスク、性的虐待の関係を縦断的に評価した。</p> <p><b>方法：</b> 二つの中規模の大学より 372 人の女性を抽出した。</p> <p><b>結果：</b> 性的虐待の経験、飲酒、これから 2 ヶ月のうちに自分が性的虐待を受ける危険性に関する質問表を参加者に記入してもらった。追跡は 2 回 (2 ヶ月後と 6 ヶ月後とに) 行い参加者を再評価した。 飲酒と性的虐待との関係は複雑で、性的虐待を受けた経験のある女性においては飲酒が性的虐待と再虐待との関係を修飾する可能性が考えられた。一方、とくに性的虐待の経験のある女性においてはアルコール使用の増加により再度の虐待を受ける危険性が高くなることが示唆された。しかしながら、性的虐待と飲酒との相互関係は見られなかった (つまり性的虐待の既往がその後の飲酒行動様式を予測するとはいえなかった)。</p> <p><b>結論：</b> これらの結果は大学キャンパスにおいて、飲酒と性的虐待に関するプログラムの重要性を示唆している。</p>	